

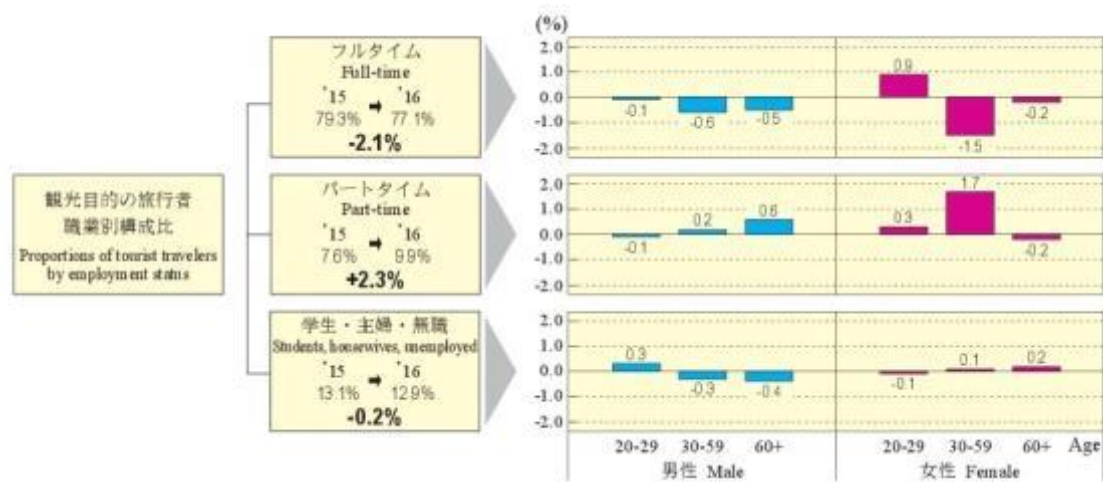
1. 雇用環境の改善が2016年における旅行者数増加に貢献か

20代女性のフルタイム就労者の旅行が増、出国率は28.5%、30代~50代女性のパートタイマー層が需要をリード

2016年の海外旅行者数は前年比5.6%の1,712万人と4年ぶりの増加に転じた。当研究所の調査によれば旅行者数の増加は若年女性のフルタイム雇用者や30代~50代の女性のパートタイム就労者を中心としており、雇用環境の改善が海外旅行需要の回復に貢献した可能性を示唆している。(図1)

(図1)

【職業・年齢層別観光目的旅行者の構成変化(2015/2016年)】



資料：(株)JTB 総合研究所「海外旅行実態調査」

注：フルタイム就労者に会社役員、自営業、自由業を含む。右の棒グラフはフルタイム就労者、パートタイム、学生・主婦・無職ごとに、それぞれの構成比の増減がどの性・年代層に由来するか示したものである。棒グラフの値を合計するとフルタイム就労者、パートタイム、学生・主婦・無職、それぞれの構成比の増減幅に一致する。

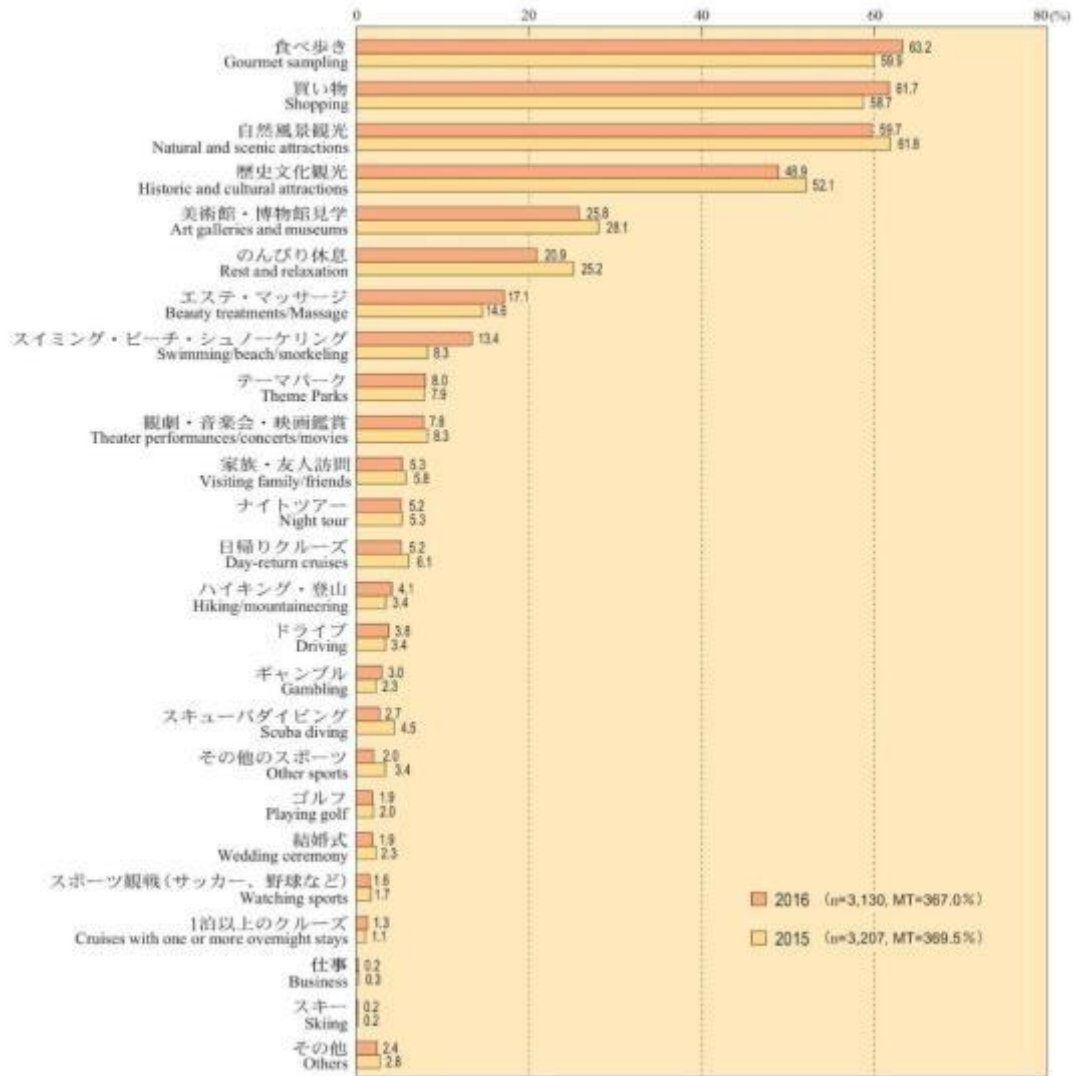
2. カジュアルな旅行スタイルが定着

「食べ歩き」が旅行先での活動で初のトップに(63.2%)、観光旅行では自分で手配する個人旅行の比率が多数派に(51.3%)

長年、旅行先での活動のトップを占めてきた「自然風景観光」に代わり「食べ歩き」が初めてトップとなった。近場の韓国、台湾などへの旅行が増加し、ヨーロッパなどが減った結果、海外旅行のカジュアルな側面が鮮明になったものと考えられる。(図2) 観光目的の旅行では自己手配による個人旅行の比率が旅行会社のパッケージ利用を上回った。海外旅行が一層身近なものになりつつあることを示すものと考えられる。(図3)

(図2)

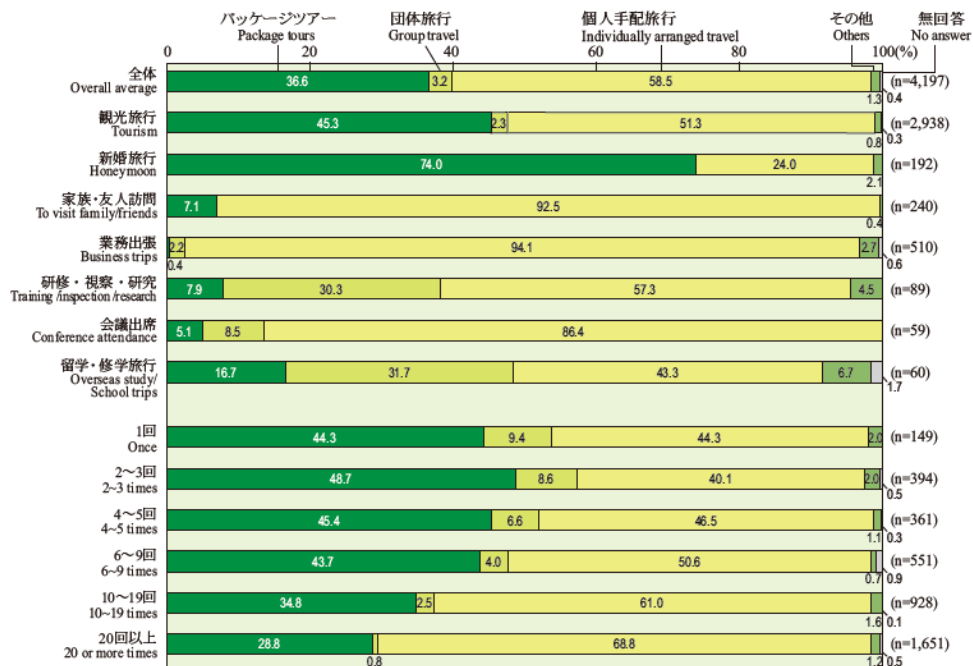
【旅行先で行った活動 (2016/2015年)】



資料：(株)JTB 総合研究所「海外旅行志向調査」

(図3)

【目的別、海外旅行経験回数別の手配内容 (2016年)】



資料：(株)JTB 総合研究所「海外旅行実態調査」

3. 韓国・台湾への旅行者数の増加が需要全体をリード

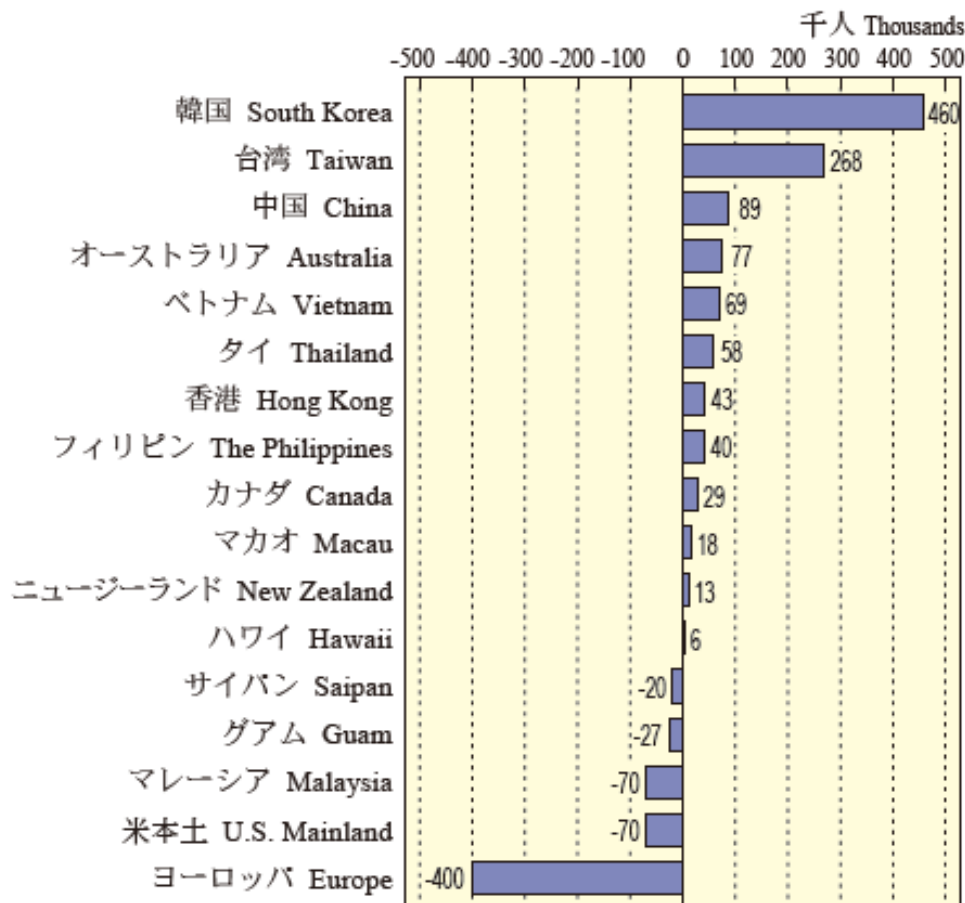
ヨーロッパへの旅行者数減は、60代以上のシニア層で顕著

2016年は韓国、台湾への旅行者数増加が大幅に増加し、海外旅行需要全体をリードした。韓国、台湾に関してはLCCの就航が大幅に増加したことも需要増に貢献したと考えられる。一方、テロが相次いだヨーロッパへの旅行者数は大幅に減少した。ヨーロッパへの旅行者数減少は60代以上のシニア層で顕著であった。シニア層の旅行先として増えたのは台湾や韓国その他、ハワイ、オセアニアなどで、これらの地域がヨーロッパで減少した旅行需要を代替したと考えられる。

(図4) (図5)

(図4)

【方面別旅行者数増減(2015/2016年)】

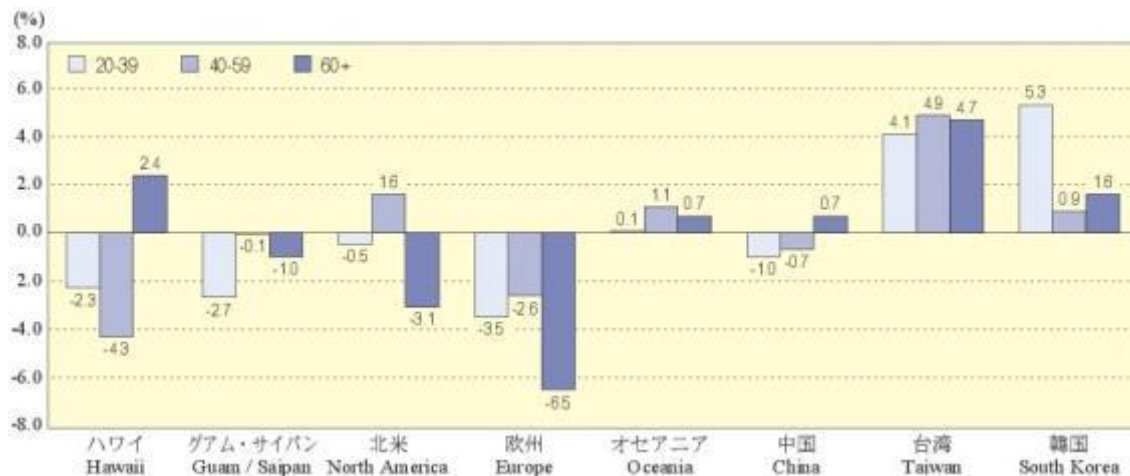


資料：各国観光局等

ヨーロッパは(株)JTB 総合研究所による推計値

(図5)

【観光目的旅行者数の年齢層・方面別構成比（前年比増減）（2015/2016年）】



資料：(株)JTB 総合研究所「海外旅行実態調査」

注：図は各年代の観光目的の旅行者を100%として前年と比較したシェアの増減を示したもの。

北米は米国本土とカナダ。オセアニアは豪州とニュージーランド。

『JTB REPORT 2017 日本人海外旅行のすべて』

監修 株式会社ジェイティービー

編集・発行・販売 株式会社 J T B 総合研究所

〒105-0014 東京都港区芝 3-23-1

セレスティン芝三井ビルディング 12階

TEL: 03-6722-0700 FAX: 03-6722-0753

定価 12,960円（本体12,000円）